

家でくたがしむ

～初めてのにはにわの世界～



沢野中央小学校3年1組
館 樹那

(返却希望)



三つ子さま

1.はじめに

私の家の庭には埴輪がありかわいいと思っていました。
なぜ家に埴輪があるのかわかりません。はにわは人だけではない
ことを知り、はにわについて知りたいと思いました。

2.埴輪について学ぶ前に

・古墳時代とは-3世紀後半~7世紀後半(約400年間、今からおそ
1700~1300年前)にかけて多く作られた土偶や土師器の総称
である。全国に糸川6万基、群馬は全国で11番目に多い。

・東国文化とは-古墳時代から平安時代にかけて現在の関東地方
周辺で栄えた文化。その東国文化の中心が群馬であった。人物埴
輪の産量とともに日本一、国指定史跡初4ありが群馬県が産
地である。

群馬県





2、埴輪について

① 埴輪とは？

古墳の上やまわりにならべられた、主に素焼きの焼き物。

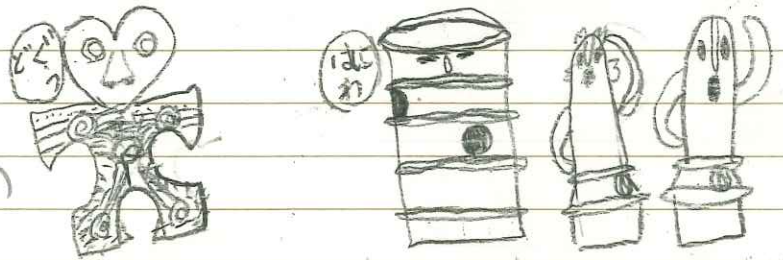
古墳時代に古墳の上に並べておかれたもの。

② 埴輪はなぜ誕生したのか？

日本がまだ弥生時代とよばれていたころ、稲作が盛んになったことで、王様などの力を持った人があられ、その人がたくなると、みんな丘のようなおほかをくぶうになった。それと合わせて、おほかは巨大化。それに合わせて大きなフナが作られるようになった。

ようになった。

③ 埴輪と土偶のちがい



土偶は縄文時代には作られていたもので、使い道や意味はことなる。

④ 埴輪からわかること

楽器をいいたり、貝をもったり

と、当時(昔)の人の生活の

木葉子を知らることが出来る。





3. 埴輪の種類について。

3世紀頃 → 4世紀前半 → 5世紀後半 → 5世紀中頃 →

① 円筒 ② 家形 ③ 器具財 ④ 動物 ⑤ 人物

① 円筒埴輪

前方後円墳の登場とともに誕生。^{たんぱう}おそなえ用のつぼや台(特
しめ器)が、^{かさかみ}したいに筒や朝顔のよう^{うぐい}な形をした埴輪に変化。
時期によって、表面にのこされた^{うぐい}工具の方向や穴の形が変化して
いくので、古墳の造られた時期を知るモサシになっている。また身
分の高さにおうじて、大きさにも区別されていた。前方後円墳は、
円筒埴輪で周りをかこまれていた。古墳の^{せいぎ}聖域を囲ったり、守た
りするものであった。

② 家形埴輪

死者のたましいが^{かど}宿る家を表したもので、^ま埋もる者の生前か死後の
の屋しきを表すイモ屋、倉庫、納屋な
どがあった当時の建物の二つが
か生活を教える手かかりとなっている。





③ 器財埴輪

王の力を示す道具を表したもののや、^{いせい}神聖な古墳を守る盾・^か申ちゆうなどの^{ぶき}武器・^{けん}武具木窠威を示す高級な目かぎのきぬかぎなどがある。器財埴輪のこまやかなつくりや色うはくなどが、時を超えて当時の権力者の生活を再現する貴重な手がかりとなる。

④ 動物埴輪

^{かりいど}狩人を助ける犬やうさぎ、^{いせい}神聖な古墳を守る者、いななどの権力者に関わる動物たちが表現。群馬県内で90%以上をしめているのが馬形埴輪で出土数は450以上。馬がたくさんいたと考えられている。馬は^{いせい}神聖な動物とみられアピールに^{いせい}神聖な動物とみられる。おびや人もさまさまな動物たちと関わりをもって生活していた。

松が乗れそうなくらいのおおききにおどろきました。





⑤人物埴輪

王様や^{ミコ}巫子、守人(かりかど)、力士、琴を弾く人、農夫、馬^{まご}駒
 どさまざま。ぎ式や^{シキ}守りの様子を再現したり、役目はさ
 まざま。アクセサリーは身分の高い人のけんいを示すため
 に付けられていたと考えられている。王のぎ式にかかわる^{ミコ}巫子の
 よそおいに、東日本ならではの特ちょうがある。東日本に
 はアクセサリーをたくさんつけたはでな装い。西日本は少なめであった。
 男(男)の埴輪のほとんどが冠がま^まうしをかぶっている。身分の差のほかに、髪型によ
 り分けられていたと考える。女に^めかぶっていない埴輪は、真ん分けのスタイルが
 1つは人白^{びやく}であったことがわかる。古墳時代は男も女もクマアヘアスタイルで男
 と女の見分けがつか。男性は身分によって分けられていた。「鏡」については、
 古^こ墳^{ぼん}時代末期に中国大陸から伝わった。副^{かぶ}ろ^ろ品^{ひん}口^{くち}かけ^{かけ}物^{ぶつ}として使われていた。



4. 埴輪はどうやってつくられていたのか

3〜4世紀は、土器と同様に野火焼きで作られていた。そのため、表面には黒いすずかがついていた。5世紀頃になると登りがまで火焼かれるようになった。このように焼く方法は、野火焼きに比べ高温で焼き、一定の温度に保つなどの火のやりががしやすく、一度に大量にならう。埴輪を作ることができた。あながまは5世紀頃にならぬ半島から伝わったもので、日本最古のかまといわれている。

群馬県には6ヶ所あり、太田とふじ岡が一大生産地として知られている。

5. はにわはなぜ作られなくなった?

前方後円墳がつくられなくなる9世紀頃にはほとんど消えてしまった。このころから仏教が伝わり、仏教寺が完がつくられはじめたため、時代の變化とともに作られなくなったと考えられている。



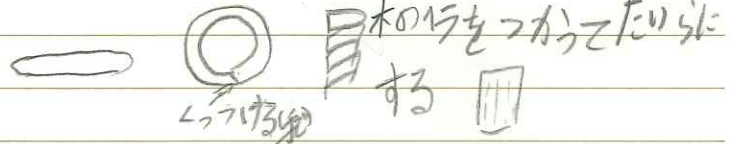


6、じっさいに埴輪を作る。

埼玉県にあるはにわの館へ行き、体験しました。
粘土は大泉の土を使っているそうです。
あったらいいなと大好きなうさぎを作りました。
〈作りか〉

粘土作りを二ねる→形を作る(ぼうじょうにしたのをつみあげていく)

→かが干し→ぼうせい



〈感想〉

思っていたよりも粘土が固かった。積み上げでいくのがとてもむずかしかった。
うさぎのはにわがよかったらいいなと思い、うさぎのはにわを作りました。
火がき上がりが楽しみですね。次は羽をつけたはにわを作りたい
です。

母 私 父

はにわの埴輪



7.感想



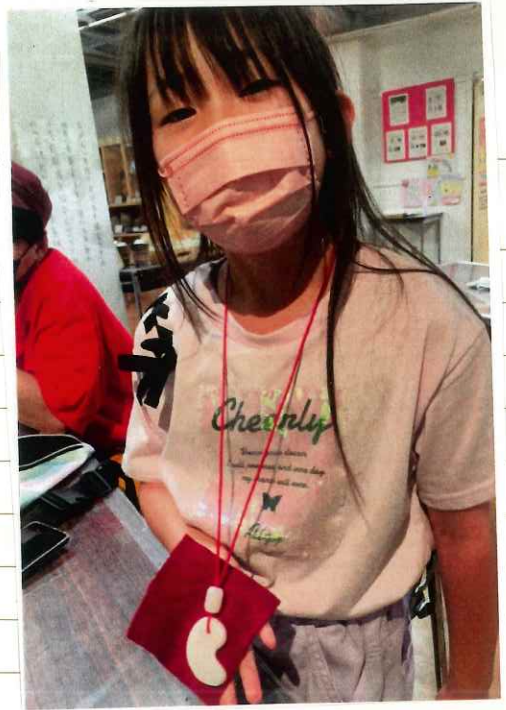
「はにわ」について学んでいくと、はに

わの種類や古墳との関わりを知ることができました。

博物館でじっさいにはにわをみると思っていたより大きかったり、たっ
 さんのはにわが土に埋まっていたことを知りました。実際にはにわ作りの体験を
 して、1キロの粘土をつかって2時かかりました。何日かけてつくったの
 かと少しきな気持ちになりました。当時のたちは一つのこゝろにならばた
 はにわを何日かけて作ったのかと少しきな気持ちになりました。家でたっ
 さんのはにわを博物館や古墳へ行き、はにわ作りが「玉作り」をしました。大
 好きなのはにわをたっさんみることができてとても楽しかったです。



はにわんについて学ぶことは古墳時代の
のことも学ぶことで少しむずかしいことも
ありましたか、もっと学んでいきたいです。
そしてまよめたものをお友だちにみてもら



い、おみやげを持ってもらえたらいいなと思いました。飛ぶするイキ事をして
いたという女性からは、見つけたときはなんととも言えない感動だっ
たと聞きました。バラバラのはしを復元するがじゅうもすごいと
思いました。

群馬県は東洋をリードする地域であったか何で栄えていたのだらう
か？関東では千葉県が古墳が多く、千葉県とのつながりはあった
のだらうか？まだまだ笑わらないことばかりなのでこれから学びを
続けたいです。





☆ 行った場所 ☆

- ・新田社歴史博物館 ・ 初めて本物の埴輪をみた場所で感動した。
- ・金山ガイダンス施設 ・ 天神山古墳の実物大の長持形石棺があった。
- ・県立がんセンター ・ 人の乗る馬の馬が思っていたよりも大きかった。
- ・高山彦九郎記念館 ・ 関東ではめずらしい陶管があった。
- ・かみつけの里博物館 ・ 古墳時代の暮らしについて学ぶことができた。
- ・群馬県立歴史博物館 ・ 埴輪の全体がよくみれた。観音山古墳の出土品がみれた。
- ・藤岡歴史博物館 ・ 笑う埴輪がみれてよかった。
- ・埼玉さきたま史跡の博物館(はにわの館) ・ 国宝の財産品がみれた。まが玉作りに参加して、私のたからものがまた一つふえた。はにわの館にてはにわ作りの体験をした。
- ・塚回り古墳群第4号古墳 ・ 埴輪がどのように並べられていたかわかりやすかった。
- ・天神山古墳 ・ 近くに大きな古墳があるのを知らなかった。
- ・朝子塚古墳 ・ 散歩でよく行っていた場所でお墓だとは知らなかった。
- ・高林西原古墳群 ・ どんぐり公園としてよく遊んでいた場所でした。
- ・富沢古墳群 ・ 埴輪のしづり力がたくさん並んでいる理由がわかった。
- ・保渡田古墳群(八幡塚古墳・井出二子山古墳) ・ 石室がみることができて、埴輪の列が印象に残った。ほかの古墳とちがって石が積まれていて、中島もあった。
- ・綿貫観音山古墳 ・ 石室に入る事ができた。大きな石やきれいにつまえた石、どのように削ったのか等いろいろ教えてもらえた。
- ・七輿山古墳 ・ 首のないお地藏さまが少しこわかった。
- ・白石稲荷山古墳 ・ のぼるのが大変であった。
- ・本郷埴輪窯跡 ・ ここで埴輪を焼いていたと思うと少しときどきした。周りもけいしゃになっていた。太田市の窯跡に行くのが楽しみです。
- ・埼玉古墳群 ・ 登れる古墳は登った。大きな円墳の階段はつらかった。石室もみることができた。石室に入るときはすこしこわいと感じる。

☆ 引用・参考文献 ☆

- ・楽しく学べる歴史図鑑はにわ ・ HANI - 本 ・ 古墳のことがわかる本

